



# 探究的な学習の在り方に関する 研究推進事業

令和4年2月18日  
坂町立坂中学校



写真：坂町ホームページより

# 坂町立学校 児童生徒数

(令和3年5月1日現在)

		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支
坂小学校	児童数	63	35	55	49	77	71	8
	学級数	2	1	2	2	2	2	3
横浜小学校	児童数	42	58	47	52	47	54	14
	学級数	2	2	2	2	2	2	3
小屋浦小学校	児童数	11	8	17	7	12	5	4
	学級数	1	1	1	1	1	1	1
坂中学校	生徒数	108	139	106				7
	学級数	3	4	3				3

## 研究主題

# 主体的に学ぶ児童生徒の育成 ～生活科・総合的な学習の時間におけるICTを 活用した授業づくりを通して～



# 実施体制

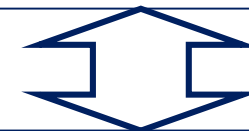
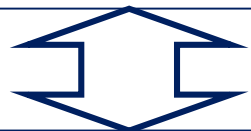
## 研究推進協議会

校長会（月1回）

会長：校長会会長 構成員：各校校長



坂町教育委員会



## プロジェクトチーム

事務局：校長会会長校

事務局長：校長会会長校 研究主任（研究推進リーダー）

構成員：各校研究主任

内容：年間計画・単元開発・研究のまとめ

# 坂中学校区として系統的に育成を目指す資質・能力の具体の姿

	小 学 校			中 学 校
	低 学 年	中 学 年	高 学 年	
チャレンジする力 <b>【挑戦】</b> <b>【粘り強さ】</b> <b>【解決力】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題や自分で決めたことに対して、最後までやってみようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題や自分で決めた目標に対して、粘り強くやり通そうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自ら課題を見付け、取り組もうとしている。</li> <li>粘り強くやり切ろうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>与えられた課題に対してだけではなく、自分なりに目標をもち、果敢に挑戦しようとしている。</li> <li>決めたことは、困難に負けず、やり切っている。</li> <li>自ら課題を見付けたり、調べたり、工夫してまとめたりしている。</li> </ul>
表現する力 <b>【自分】</b> <b>【目的・相手・場面】</b> <b>【工夫】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えをもち、伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを、目的や相手に応じて、根拠を明確にして伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを、目的や相手、場面に応じて、工夫しながら伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分自身のことや自分の考えなどを理解してもらえるように、目的や相手、場面に応じて、内容や方法、表現の仕方などを工夫しながら伝えることができる。</li> </ul>
協力・貢献する力 <b>【役割】</b> <b>【感謝】</b> <b>【行動力】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校や家庭の中での役割に気付き、行動しようとしている。</li> <li>「ありがとう」が言える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校や家庭、地域の中での役割に気付き、皆と協力して行動している。</li> <li>進んで感謝の気持ちを伝えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校や家庭、地域の中での役割を考え、皆と協力して行動している。</li> <li>感謝の気持ちを相手に伝わるように表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校や家庭、地域の中での役割を自覚し、皆と協力して行動している。</li> <li>地域の発展のためには、どのようなことをすればよいかを考え、行動している。</li> </ul>

# 第3学年 総合的な学習の時間

## 【単元名】

お互いの命をまもり合おう

## 【単元の目標】

自分たちが生活している坂地域のよいところや課題を見付け、その課題の解決に向け地域の方と連携しながら活動することを通して、地域の一員としての自覚や誇りを持ち、自らの生き方について考え、行動しようとする

# <地域の課題を発見>

タブレット等で  
情報を収集

収集した情報を  
整理・分析

課題を「防災」に  
焦点化



10/06/2021





# <知識を深める>

これまでの先輩  
の取組から学ぶ

環境保全と防災の  
関係について調査

ICTを活用し発表



# <体験を通して学ぶ>

災害派遣の体験講話等

人命救助器具の試作

自衛隊装備の体験



# <追悼式を企画>

平成30年豪雨災害追悼式企画

各クラスより  
メッセージ発表

地域の方  
より講話



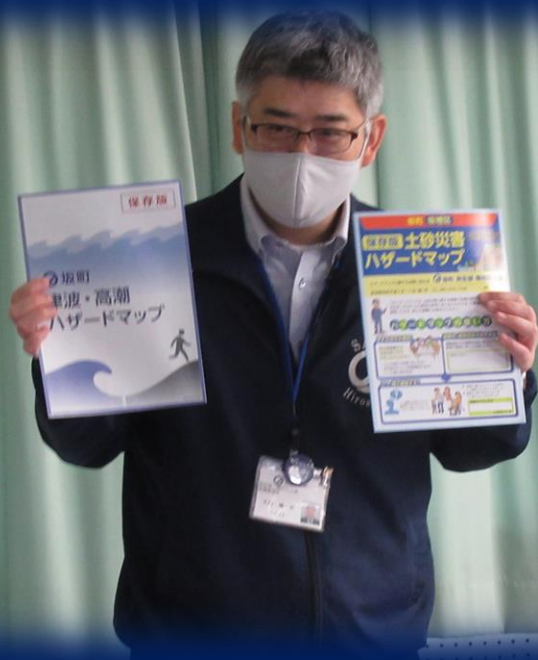


## <地域へ貢献>

ゲストティー  
チャーに発表

ゲストティーチャー  
よりアドバイス

地域貢献のため  
の行動に移す



### 授業の流れ

1. めあての確認
2. グループで発表する
3. 発表のまとめ
4. 全体発表
5. 振り返り



# 【ゲストティーチャーに発表した課題】

(一部抜粋)

- みんなが手軽で、準備しやすい防災グッズ
- 非常用避難袋について
- 分かりやすい、ハザードマップ作り
- 家具の固定について
- コロナ禍における、地域の人とのコミュニケーションの取り方
- ボランティアに参加するために自分たちにできること

# ◎本時の評価規準について

## ○パフォーマンス課題【本時】

- ・ 地域のために自分ができることを考え、伝えることができる

## ○ルーブリック（評価規準）【本時】

	評価規準
Ⅲ	防災のために行動している人に感謝し、地域貢献のために、自分ができることを仲間や地域の人を巻き込んだ提案を考え伝えようとしている。
Ⅱ	防災のために行動している人に感謝し、地域貢献のために、自ら行動に移せる具体性のある提案を考え伝えようとしている。
Ⅰ	地域のために行動しようとする意識が薄く、地域の実状に応じて考えようとしていない。

# 調べて分かったことを分かりやすく発表

今まで学習して分かったこと

## 正常性バイアス

正常性バイアスとは、認知バイアスの一種。社会心理学、災害心理学などで使用されている心理学用語で、**自分にとって都合の悪い情報を無視したり過小評価したりするという認知の特性のこと**。「正常化の偏見」、「恒常性バイアス」とも言う。



災害が起こっても自分は大丈夫と思い込んでしまう

非常事態の際に「正常性バイアス」に脳を支配されないよう、本当に危険なのか、何をしたらいいかを見極める判断力を養っておくことが大切！

## その③ 家庭での備え

- 非常用持ち出し袋
- 食料，飲料の備蓄
- 家具の転倒防止対策



避難をスムーズに



非常用持ち出し袋は  
一年に一度点検を！！

## 疑問に思ってから調べて分かったこと

災害に備えた主な事前準備

- 防災グッズを買った際の使用方法の確認  
・ 実際の使用
- 非常食の定期的な処分・交換
- 貴重品(通帳・身分証明書等)の保管
- 非常用持ち出し袋の重さの確認(15kg目安)





# 調べても分からないことを質問

## 質問内容

- ・非常用持ち出し袋の重さは大体どの程度がいいのか。  
(ネットで調べてみたが個人運営のため信憑性に欠ける。)
- ・非常用持ち出し袋を準備しない家庭に効果のある説得方法



ハザードマップを身近にする

(例) 各家庭に一つハザードマップを所持する



スムーズに避難し、人的被害が減る。



ハザードマップを身近にするには？



## コロナ禍での コミュニケーションの取り方

どのようにして  
コミュニケーション  
をとるとよいのか？



# 地域のために自分ができることを考え、伝えることができる

めあての確認

グループで発表する

発表のまとめ

全体発表

振り返り



・ ノンバーバルコミュニケーションなら、話すことが苦手な人も気軽にできるし、コロナ禍を意識しなくてもよいと思った。今日学んだことを家族に話すことで、防災に向けての意識を高めていこうと思う。

# 地域のために自分ができることを考え、伝えることができる



・僕の近所では、お年寄りの方ばかりなので、具体的なコミュニケーションをとるのは難しいと思います。だから、あいさつをすること、運動をしている元気なところを見てもらうなどを継続していきたいです。

# 「坂町学びのアンケート」より

◎他の人や地域の安全のために役立ちたいと考えている

	学習前	学習後
肯定的な回答 (%)	91.9	96.0

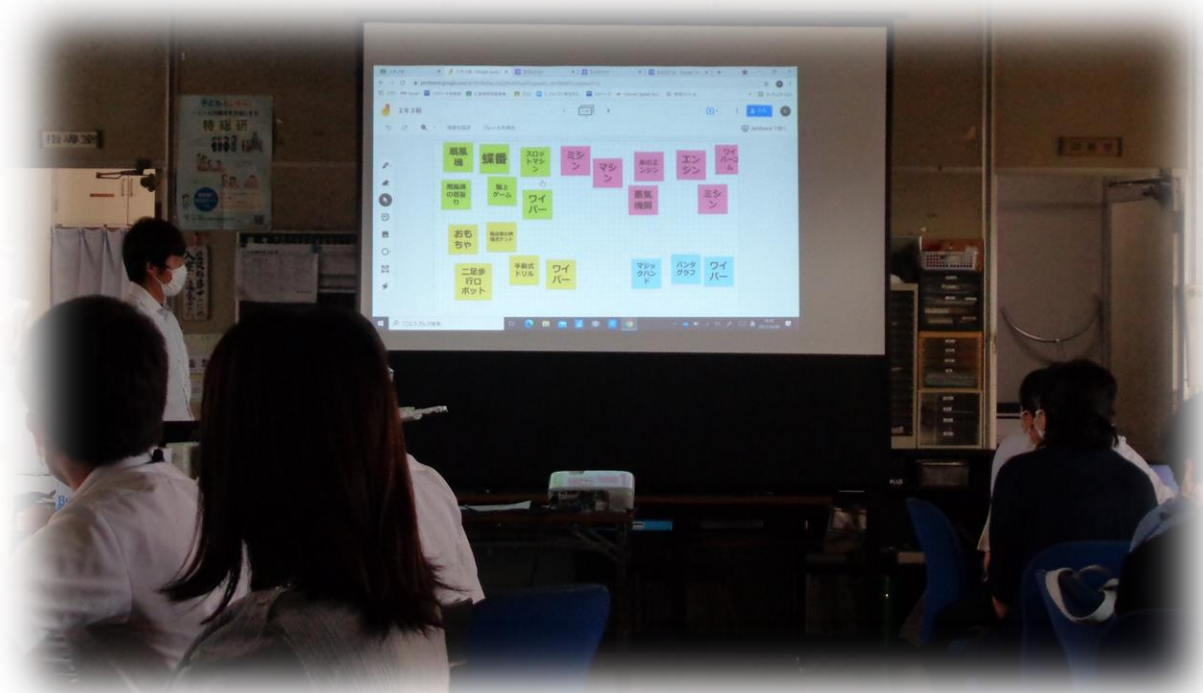
- 過去に助けってもらって、自分も助けられる存在になりたいから。
- 生まれ育った町に恩返しをしたいから。
- まわりの人に死んでほしくないから。

## 「坂町学びのアンケート」

◎自分の住んでいる地域で災害が起きたら、ボランティア活動に進んで参加したい

	学習前	学習後
肯定的な回答 (%)	93.1	96.0

- 前の災害でボランティアの人の中に県外から手伝ってくれて、とてもうれしかったから。
- 災害が起きた後の大変さを知っているから。
- あれは忘れもしない7月6日、西日本豪雨が坂町を襲いました。その時、自分は役に立てなかったので坂のために無償で貢献したいからです。



## 【成 果】

- 中学校区として育てたい資質・能力の整理
- ICTの積極的な活用
- 地域とのつながりの促進

## 【課 題】

- 育てたい資質能力の評価・改善
- 学習指導要領の趣旨実現のためのICT活用

**ご清聴ありがとうございました**